

皆さま、こんにちは。2025年6月のレポートをお届けします。
今月も4月に引き続き、スペインに住む中で感じた文化や社会的側面についてお伝えします。

○働き方と“マイペース”の価値観

スペインで暮らしていると、人々の仕事の価値観が日本と大きく異なることを強く感じます。仕事の「成果」や「成功」よりも、「生活とのバランス」に重きをおいている人が多いように実感します。

その象徴的な例が「シエスタ（昼寝・昼休憩）」です。かつては午後に数時間、商店や企業が完全に閉まる習慣がありました。都市部ではその慣習は薄れつつありますが、それでも昼休憩をしっかり取り、午後に備えるリズムは今も根強く残っています。

また、有給休暇についても日本とは大きく異なります。スペインでは年間30日前後の有給休暇を取得できる場合が多く、さらにその消化率はほぼ100%に近いというデータもあるほどです。7～8月にかけては、マドリードの街はゴーストタウンのように人が消え、多くの人々が海沿いやリゾート地、あるいは山間の避暑地で家族や友人とバカンスを楽しみます。私のスペイン人の友人も「今年の夏は数週間有給を利用して、友人と海外旅行に行く」と話しており、長期休暇を当然の権利として満喫していました。

どうしても「仕事のために生きる」色が強くなってしまいう日本社会と比べると、「生活の一部として仕事がある」という価値観を身近に感じました。そしてそのようにバランスを取りながら人生を楽しむ姿勢を見て、「多少休んでも世界はちゃんと回っていく」という事実、少し肩の力が抜ける思いがしました。

○若者と社会課題：失業率と人材流出

このように生活と仕事のバランスを大切にする一方で、スペイン社会には厳しい現実も存在します。その代表的なものが「若者の高い失業率」です。スペインの若年層（25歳未満）の失業率は28%と依然として高く、EU諸国の中でも最も高い水準にあります（参考：欧州連合日本政府代表部「EUの雇用社会政策の現状と最近の動向について」2024年9月 [リンク](#)）。特に地方では就職の選択肢が限られており、多くの若者が大都市や国外に機会を求めざるを得ない状況にあります。

さらに、スペイン国内で就職しても賃金水準は他の西欧諸国と比べて低い傾向にあります。修士課程や博士課程を修了した優秀な人材であっても、より高い給与やキャリア機会を求めて、フランスやドイツ、オランダ、ベルギーなどへ移るケースは少なくありません。こうした「人材流出」は、スペイン経済にとって大きな課題であると現地の人々からも耳にします。

それでも、現地の若者と話していると、その語り口は驚くほど明るく、「将来を悲観しすぎず、今を楽しむ」姿勢が強く感じられます。厳しい現実を前にしても、ユーモアを忘れずに生きるその態度は、スペイン社会の強さのひとつかもしれません。この問題は一筋縄では解決できませんが、こうした現実と価値観の両方に触れることで、私自身「社会課題をどう理解し、どう向き合うか」という問いを持ち続けることの大切さを学びました。



Panoramic View of Madrid